

Two Frogs

A green frog and a yellow frog happened to meet each other in the middle of a field.

“Hey, you are yellow. It’s a dirty color, isn’t it?” The green frog said,



“You are green. Are you thinking you’re pretty?” The yellow frog said.

When we are talking like this, something bad will happen. At last the two frogs began to fight against each other; the green frog jumped on the yellow one. The frogs are good at jumping.

The yellow frog kicked sand at the enemy with the hind feet, so the green frog often had to wipe the eyes with the forefeet, when a cold wind blew on them.

The frogs remembered winter would come soon. They have to spend the cold winter under the ground.

“Why not stop this fight and start it again in spring?” saying so, the green frog went into the earth.

“Don’t forget what you said now!” saying so, the yellow frog also went into the earth.

Cold winter came over them. Cold north wind blew hard and frost columns settled on the ground.

After cold and severe winter, warm and gentle spring rolled around again.

The frogs sleeping under the ground felt the warmth on their back.

The green frog woke up first and got out of the earth.

He cried to his fellow in the earth,

“Hey! Wake up! Spring has come!”

Hearing it, the yellow frog came out of the earth and said,

“Well, winter is over!”

“Do you remember our fight in the last fall?” the green frog said.

“Don’t be so excited! Why not wash the dirt off our body?” the yellow frog said.

The two frogs went toward the pond together to clean their body. The pond was full of the lemonade-like fresh water, into which they jumped.

After washing the body clean, the green frog said to the yellow one, blinking the eyes.

“How beautiful your yellow is!”

“Your green is beautiful too.” the yellow frog said.

The two frogs said together,

“Let’s stop our fight!”

After a good sleep, even humans are cheerful. (2020/4/15)

Original by Nankichi Niimi

二ひきの蛙

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑の蛙がいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙はとうとう喧嘩をはじめました。緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙はとびかかるのが得意でありました。

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、背中の上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしょに、緑の蛙が目をさました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」と土の中にむかってよびました。



すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といて、土から出てきました。

「去年のけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいました。

「待て待て。からだの土を洗いおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいました。

二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいました。

そこで二ひき蛙は、

「もうけんかはよそう。」といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものであります。

原作：新美南吉